

東松戸ゆいの花公園  
利用促進協議会会長

湯浅 隆雄

YUASA Takao

結いの会代表

石川 美記子

ISHIKAWA Mikiko

PROFILE

湯浅隆雄

第35回全国「みどりの愛護」のつどいにおいて功労者国土交通大臣表彰を受賞した「東松戸ゆいの花公園利用促進協議会」会長。平成30年、協議会が組織され初代会長に就任して以来、今日に至るまで公園の利活用を発展・充実させるために尽力。

石川美記子

広報でボランティア募集を見たことをきっかけに「結いの会」の活動に参加。花を愛する仲間とともに、公園を訪れる人々の笑顔に触れる喜びを感じながら、四季折々の花々で公園を彩っている。

東松戸ゆいの花公園では、東松戸ゆいの花公園利用促進協議会構成員の「結いの会」の皆さんが、花壇の一部分を維持管理しています。また、別の構成員「マグノリア・コンサート実行委員会」は、ゆいの花公園のみどりと花に囲まれた環境の中で、クラシックコンサートを年に3〜4回開催しています。他にも春の「結いの花フェスタ」や冬の「クリスマス会」を松戸市と共催するなど、多種多様なイベントを実施しています。四季折々の花を通じて、人と人が結ばれ人の輪が広がっていく豊かな環境は、ボランティアの方々の協力の上に成り立っています。協議会としても「継続は力なり」の想いで、構成員の方々のご意見を伺いながらこの素晴らしい

公園をより豊かなものにしていきたいと考えています（湯浅）。  
私たち「結いの会」は公園内の花壇のデザインを考える他、花の植え替えや花がら摘み、水やりなどの維持管理を行っています。そこで育てた花を押し花にしてしおりを作ったり、ラベンダーの香り袋を作っています。来園者にも体験してもらえるように、春・冬のイベントの際には講座も開催しています。花壇の手入れをしていると、お散歩に来た保育園の子どもたちや、お昼ご飯を食べに来たご年配の方たちに「ありがとう」と声をかけていただくことも多いです。皆が優しい気持ちでつながっていく、そんな素敵な雰囲気がこの公園にはあると感じています（石川）。

花によって結ばれ、花を通じて広がる人の輪



特定非営利活動法人  
クリエイティブまつど工房理事長

榎本 孝芳

ENOMOTO Takayoshi

PROFILE

江戸川松戸フラワーライン実行委員会相談役。30代の頃、青年会議所でまちづくりに取り組む中でみどりへの関心を深め、みどりを育むボランティア活動を開始。建設業の現場監督等の職務で培った、人と協力して現場を動かすプロデュース能力を発揮しながら、30年以上にわたり松戸市の多様な取り組みに尽力している。

皆が誇りを持てるまちづくりを目指して

「江戸川松戸フラワーライン」は、松戸の魅力を引き出して、住む人が自分たちのまちに愛着を持てるようにとの思いから始まりました。現在花畑がある場所の地下には、古ヶ崎浄化施設があります。ここが花畑になる前は施設建設のため石ころだらけで、マンホールや杭が地表に出ていて、グラウンドとしての使用が困難な状態でした。そこで「緑花清流のまちづくり」構想のもと、市民と行政が協働でこの場所を花畑にする取り組みが、平成7年に始まりました。しかし、ここまでにするのは簡単ではなく、江戸川が増水してコスモスが根腐れしてしまったり、レンゲが害虫にやられてしまうなど、何度も被害に見舞われました。水道水源となる

江戸川の河川敷に殺虫剤等は使用できないので、その分苦労は多かったですが、それでも試行錯誤を重ねた結果、今では江戸川の河川敷に広がる約2ヘクタールの花畑に、春にはポピー、秋にはコスモスが一面に咲き誇り、お祭りも定期的に開催されるなど、市民が憩う花の名所になりました。  
現在も多くのボランティアの方々が、協働してこの花畑の運営・管理を行っています。この活動を長く継続していくために、興味を持った人が気軽にボランティアに参加できる仕組みづくりも進めていこうと考えています。そして誰もが「私はこのまちが好きです」と誇りを持って言える環境を、これからも守り育てていきたいと思っています。